

# 交渉～働き方改革に繋がる「1年単位の变形労働時間制」に向けて～

運用」を主な争点として交渉を進めました。

①については、国がイメージしたプロセスと今回の提示にいたるプロセスの矛盾について追及し、現場では何も話をされていない状況を県教委に伝えました。県教委からは、「校長等には聞き取り等を行ったが、職員会議等で話し合う内容ではない。」との回答がありました。職員会議で話し合わないままでも、働き方改革の当事者である教員への聞き取りや制度の周知は必要であることを伝えました。②については、「これまでも業務改善を進めている。」との



2月9日(火)9時より、1年単位の变形労働時間制に係る交渉が行われました。①「提示にいたるプロセスとその是非」②「条例の制定だけでなく、働き方改革促進のための具体的な業務削減案の提示」③「長期休業期間中の休日の確保の見直し」④「1年単位の变形労働時間制を望まない者を対象者に含めない

## 県教委提示 制度の内容

- (1) 教育職員について、長期休業期間等に勤務時間が割り振られない日を連続して設けることを目的とする場合に限り、必要のある者について、1箇月を超え、1年以内の期間(以下、対象期間という。)を平均して1週間あたりの勤務時間が38時間45分となるよう、週休日及び勤務時間の割振りを定めることができる。
- (2) この場合、毎週少なくとも1日の週休日を設ける。
- (3) 対象者の決定に当たっては、育児や介護を行う者などについて配慮を行う。
- (4) 対象期間は、長期休業を含み、4月1日から翌年3月31日までの間で、各学校の実情に応じ、必要な期間とする。
- (5) 1日の勤務時間は原則として7時間45分、学期中の繁忙な期間においては、9時間を上限とする。
- (6) 対象期間を1箇月以上の期間ごとに区分して勤務日及び勤務時間等を割り振る方法によることもできる。
- (7) 「指針」\*に定められた1年単位の变形労働時間制の活用の際に講ずべき措置を講ずる。
- (8) 県費負担教職員について、所用の読替規定を設ける。

\*「指針」:公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員のサービスを監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針

回答でした。研修や会議、諸調査の削減、特に全国学力・学習状況調査の自校採点・入力業務は、即刻廃止すべきであること、県教委として具体的な業務削減案を示すことを強く求めました。③については、多くの方がこれまで厚生休暇(4日)を充てていた学校閉庁日に「勤務時間を割り振らない日」(まとめ取りの休日)を充てた場合、休日は増えずに勤務時間が延長されるだけとなってしまうため、厚生休暇とは別に「勤務時間を割り振らない日」が確保されるべきであると伝えました。県教委からは「来年度については、厚生休暇の完全消化は維持される。」との回答を得ました。④については「対象者を明示すると逆に運用面で柔軟な対応ができなくなる。校長が育児や介護などそれぞれの事情に配慮して対象者を定める。」との回答でした。1年単位の变形労働時間制は年間の中で繁忙月を指



度は、昨年度に引き続き、フカキヨ(深尾浄量)氏を講師としてお迎えしました。フカキヨ氏は中学校の国語科の教師として20年、教壇に立った後に退職され講演家としてデビューされました。夢を語り合いながら叶えていく、夢の予祝を150回以上実践されています。「自分自身は素晴らしい存在である。」ことを講演やセミナーで伝えるべく全国を飛



1月16日(土)、県教連と山口教文研共催による教育講演会を開催しました。コロナ禍ということもあり、例年の対面開催を取りやめ、ZOOMによるリモート開催と致しました。今年

約4時間に亘り交渉を行いました。互いに歩みよることができませんでした。山本委員長は、「1年単位の变形労働時間制は、働き方改革を進める上で選択肢になり得るものであり、いずれ制定はしてもらいたい。現状では時期尚早である。県教連としては、本日合意することはできない。」と県教委に伝え、13時20分、交渉を終えました。

「夢の予祝」とは「世界一ふざけた夢の叶え方」という本をヒントにフカキヨ氏が辿り着いた考え方であり、叶えたい夢を叶ったこととして、先に仲間にお祝いをしてもらうことです。参加者の中には、半信半疑な表情をされる方もいらつしやいましたが、昨年度の教育講演会の場で自分の夢を語り、参加者から予祝を受けた方が夢を叶えられたという事実が告げられると期待感が高まったようでした。今回の教育講演会でも参加者からお一人、勇気を振り絞って名乗り出た方が、自分の夢を語られました。そして、参加者から割れんばかりの祝福を受けていました。他の参加者にもZOOMの「チャット」機能を用いて夢を語るようにフカキヨ氏は促し、多くの方がチャットで夢を發表されていました。

フカキヨ氏は夢を語るポイントとして「大きな夢でないといけないという訳ではなく、『松坂牛を食べた。』等の小さい夢でも全然問題ない。夢をすぐに語ることが大切である。歳を重ねるにつれ、夢を語ることに臆病になる。自分なんて夢は叶わないうと思ってしまう。あなたは素晴らしい存在なのだから夢を語れば絶対叶う。」と言及されました。

フカキヨ氏の熱い言葉に多くの参加者心が震わされた様子でした。講演会後のアンケートでは「自分が幸せであることに気付きました。今日から一日一日を大切にしていきたいと思いました。」「感動、涙、笑いで心が潤う時間でした。今から夢を叶えます。」等の感想をいただきました。

び回っておられます。「夢の予祝」とは「世界一ふざけた夢の叶え方」という本をヒントにフカキヨ氏が辿り着いた考え方であり、叶えたい夢を叶ったこととして、先に仲間にお祝いをしてもらうことです。参加者の中には、半信半疑な表情をされる方もいらつしやいましたが、昨年度の教育講演会の場で自分の夢を語り、参加者から予祝を受けた方が夢を叶えられたという事実が告げられると期待感が高まったようでした。今回の教育講演会でも参加者からお一人、勇気を振り絞って名乗り出た方が、自分の夢を語られました。そして、参加者から割れんばかりの祝福を受けていました。他の参加者にもZOOMの「チャット」機能を用いて夢を語るようにフカキヨ氏は促し、多くの方がチャットで夢を發表されていました。



発行  
山口県教職員団体連合会  
代表者 山本 純  
編集人 林 則久  
山口市大手町教育会館内  
電話 (083) 922-2049番  
FAX (083) 921-0907番  
E-mail: yamaguchi@kenkyouren.jp  
ホームページ http://www.kenkyouren.jp

